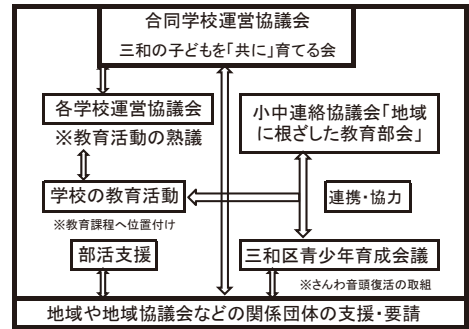


# 「ふるさと三和を愛する心を育む」ことが共通テーマの地域を元気にする活動

新潟県上越市	● 活動名	● 関係する学校名
	三和の子どもを『共に』育てる会	上越市立三和中学校、上越市立里公小学校、上越市立上杉小学校、上越市立美守小学校

設置年度	平成 24 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	150 人
学校運営協議会の委員数	13 人	学校運営協議員の属性	町内会長、PTA会長、PTA役員、青少年育成会議コーディネーター、地域住民、校長		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.sanwa-j.jorne.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	上越市立三和中学校	☎ 025-532-2024
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

「三和の子どもを『共に』育てる会」（三和区の3小・1中学校による合同学校運営協議会）を組織し「ふるさとを愛する心を育む」ことをテーマとした協議を行い、現状や課題について明らかにした。地域全体で課題を共有し、子供も大人も学び育つための場を設定することや、三和区青少年育成会議と連携した子供の活動を支援することが必要であることを確認した。また、事業として、コミュニケーションの大切な、いじめや差別の無い社会を実現するための講演会を開催している。

三和区青少年育成会議と三和の子どもを『共に』育てる会が連携し、「さんわ音頭」復活に向けた中学生の取組などに対し支援を行い、地域の活性化に寄与している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

- ・三和の子どもを『共に』育てる会で「子どもたちの教育を考える」グループワークを実施する  
「三和の未来を担う人づくりのために、私たちは何をすべきか？」を考え、現状や課題を共有し地域に発信する。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会としての事業を提案し開催する  
差別を許さない心を育む講演、コミュニケーションの大切さを学ぶ講演会など子供と地域住民が学ぶ機会を設定。
- ・中学生が取り組む、お年寄りを元気づけるための活動である「さんわ音頭」復活に向けた活動を支援する  
地域コーディネーターが中心となり、中学生の活動を三和区振興会や越後さんわ音頭継承普及会等の地域の多様な団体と繋ぎ合わせ、活動が地域全体に広がるよう後押し。小学校の運動会での普及PR活動・さんわ音頭プリントのオリジナル手ぬぐい販売などの支援、踊りや歌などを指導支援、会場のやぐらの設置、法被の購入などに際して側面からの支援等を実施。

### 【実施にあたっての工夫】

- ・三和の子どもを『共に』育てる会の代表である各学校の学校運営協議会長との事前の協議・連携。
- ・小中連絡協議会の「地域に根ざした教育部会」を中心に統一性を持たせた指導やカリキュラムづくり。
- ・青少年育成会議コーディネーターと各学校の地域連携推進委員との連携の場の設定。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会の事業について地域へのPRや報告。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会委員による地域への働き掛けと事業への協力・支援。

## ● 事業を実施しての効果・成果

- 子供たちとともに学び活動する場や子供たちへの指導を通して、高齢者をはじめ地域を元気づける活動となった。
- ・中学生が核となり小学校の運動会に向き、地域の高齢者とともに活動の場が創出された。
  - ・さんわ音頭を指導する、越後さんわ音頭継承普及会に新たな活躍の場が生じ、活動が活発になった。(DVD作成)
  - ・さんわ祭りでの出店を通して、地場産野菜作り「愛菜」のみなさんの活動紹介の場ができた。
  - ・地域と子供たちが共に学ぶ場を設定することができた。(講演会の開催)
  - ・部活動支援により、地域の指導者の育成やスポーツクラブの活性化に寄与することができた。

## ● その他

少子化に伴う部活動の存続や指導する教師がいないという危機感から、部活動の支援を地域やスポーツクラブに要請した。学校運営協議会の構成するメンバーやPTA役員等の絶大な支援と理解があり、NPO法人「さんわスポーツクラブ」との連携を図り「部活動を地域で支える」という体制を作ることができた。



三和の子どもを『共に』育てる会での「子どもたちの教育を考える」ワークショップ



さんわ祭りで小学生や地域住民と踊る「さんわ音頭」

ポイント

少子化を地域課題として捉え、「さんわ音頭の復活」を解決のキーワードとして、地域の多様な団体が連携し、子供たちと共に活動したことは、ふるさとの良さや伝統文化を学びの軸にしようとする取組の好事例ですね。